

2 0 1 5 年 7 月 3 日 公益財団法人 イオンワンパーセントクラブ

# 次代を担う若者に グローバルな視野を持つキッカケを 7/6(月)から日本で「日本 中国 ティーンエイジ アンパサダー事業」を実施

公益財団法人イオンワンパーセントクラブ(以下、当財団)は7月6日(月)から13日(月)までの8日間、中華人民共和国(以下、中国)の高校生60名を日本に招待し、日本の高校生60名と国際交流する「日本 中国 ティーンエイジ アンバサダー事業」を実施します。

当財団は、アジアの国々と日本の高校生が互いの国への訪問を通じて交流する「ティーンエイジ アンバサダー事業」を1990年より実施し、これまでに日本を含む18ヵ国1,852名が参加しています。日中間でのティーンエイジ アンバサダー事業は2009年以降毎年継続して取り組んでいます。日中国交正常化40周年の2012年には各国100名が参加するなど、国別の参加者では本事業最大の721名が交流してきました。

このたびの交流事業では、日本の文化に親しみ、歴史への理解を深めるさまざまなプログラムを実施するとともに、ティーンエイジアンバサダー(小さな大使)として、首相官邸、外務省への表敬訪問、中国大使館での両国高校生による質問会も実施します。また、7日(火)、8日(水)の2日間は日本で暮らす中国の方々が同行し、中国の高校生に日本での生活について伝えて頂きます。

本事業が、両国高校生の間に深い友好関係を築くとともに、日中間においても親善の輪を広げる一助となることを願っています。

なお、10月には日本の高校生が中国を訪問する予定です。

当財団はこれからも、日中の相互理解を深め、友好の架け橋となるべく、さまざまな取り組みを実施してまいります。

【日本 中国 ティーンエイジ アンバサダー事業について】

1.期 間:7月6日(月)~13日(月)

2.参加者:中国(北京市、武漢市、蘇州市)の高校生60名

日本(東京都、千葉市)の高校生 60名

3. 実施地域:東京都、千葉県、茨城県

4. 交流地域:北京市(30名)⇒東京都(30名)筑波大学附属高等学校

武漢市(15名)⇒東京都(15名)東京学芸大学附属高等学校

蘇州市(15名)⇒千葉市(15名)千葉市立千葉高等学校

※上記地域の高校生が相互交流を深めます。

#### **5**. キなプログラム:

7月 6日(月) オリエンテーション

7月 7日(火) 伊藤ハム東京工場見学、茶道・折り紙・風呂敷包み体験

7月 8日(水) 地引網体験、うちわ作り体験、御座船体験

7月 9日(木) 首相官邸へ表敬訪問、外務省での質問会

中華人民共和国駐日本国大使館での質問会、歓迎会

7月10日(金) 授業体験

7月11日(土) ホームステイ

7月12日(日) ホームステイ

7月13日(月) 帰国

# **ご参考** 公益財団法人イオンワンパーセントクラブの主な事業内容

## ◆次代を担う青少年の健全な育成に資する事業

<イオン チアーズクラブ>

地域の小中学生の環境保全活動を支援。毎年夏に全国大会を開催。

<中学生環境作文コンクール>

環境問題に関する作文を募集し、優秀な作文提出者は生物多様性研修に参加。

<AEON eco-1グランプリ>

全国の高校 及び高校生のエコ活動を顕彰し、エコ活動の輪の広がりを支援。

#### <学校建設支援>

アセアン各国で子どもたちの教育環境の整備を支援。全国で実施した募金にほぼ同額を上乗せし、小学校校舎建設と附属設備の設置及び教員養成を支援。

<セーフウォーターキャンペーン>

学校建設を支援した地域で汚濁水を生活用水に使っている地域に、浄化した 給水施設を設置することで子どもたちを健康面と教育面から支援。

#### 【学校建設支援】



ミャンマー旧校舎



ミャンマー新校舎



新校舎に喜ぶ子どもたち

## ◆諸外国との友好親善の促進に資する事業

**<ティーンエイジ アンバサダー>** 

海外と日本の高校生が相互交流を通じ、互いの伝統文化への理解とグローバルな視野を持つことを支援。

<アジア ユースリーダーズ>

アジアの高校生・大学生が一堂に会し、開催地の社会問題への解決策を議論し 政府へ提案することで多様な価値観への理解を深めることを支援。

**<イオン スカラシップ>** 

アジア各国で学ぶ大学生へ奨学金を給付し、次代を担うリーダーの夢の実現を支援。

#### 【ティーンエイジ アンバサダー】



首相官邸訪問



中国での授業体験



ミャンマーで托鉢体験

## ◆地域社会の持続的発展に資する事業

くふるさと未来支援>

日本各地に伝わる固有の伝統文化の継承と普及を支援。

く災害復興支援>

大規模自然災害に見舞われた地域と人々の復興と復旧を支援。

<公益法人への支援>

弊財団の設立主旨に見合う活動を行う公益法人を支援。

※ 活動の詳しい内容はこちら(https://www.aeon.info/1p/)をご覧ください。